

令和五年度

全国吟詠コンクール決勝大会

来場歓迎・入場無料

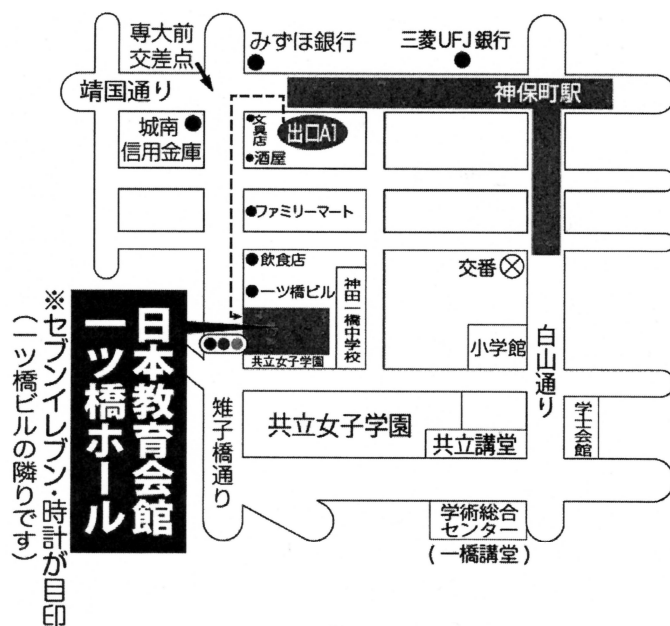
後援

NHK

・とき 令和5年9月18日(日・祝)
午前9時開場・午前9時30分開始
☞ところ 日本教育会館・一ツ橋ホール(裏表紙参照)

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会



日本教育会館・一ツ橋ホール

〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋二丁目6番2号 TEL. 03(3230)2831
(最寄駅) ●地下鉄都営新宿線・三田線・東京メトロ半蔵門線
神保町駅A1出口より徒歩約5分
●東京メトロ東西線 竹橋駅より徒歩約5分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

大会次第

- | | |
|------------|-------------------|
| 一、開会の辞 | 一、競吟・一般一部 |
| 一、国歌斉唱 | 一、幼年・少年・青年の部・一般一部 |
| 一、財団会詩合吟 | 審査結果発表 |
| 一、財団代表挨拶 | 一、競吟・一般三部 |
| 一、競吟実施要項説明 | 一、競吟・一般二部 |
| 一、審査委員紹介 | 一、審査講評 |
| 一、競吟・幼年の部 | 一、審査結果発表 |
| 一、競吟・少年の部 | 並びに入賞者表彰 |
| 一、競吟・青年の部 | 一、閉会の辞 |

(注意) 一、役員集合 午前八時三〇分
二、出演者集合 午前九時〇〇分 時間厳守

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか 役員一同

財団法人日本吟剣詩舞振興会会詩

笹川良一作

朝に吟む夕に舞うて 心身を錬り
礼節持し来りて互に真と養う
世界は一家 皆我友
願わくは斯道と興して人倫を正さん

笹川鎮江書

- 一、基本姿勢
吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。
- 二、指導者の心構え
吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては權威をもって臨む。
- 三、師に対する心構え
吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。
- 四、分家・独立
吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。
- 五、他流との関係
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎む。
- 六、吟剣詩舞道の普及向上
吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。
- 七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力
吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。

令和四年度
幼年の部 岩永 克衛(長崎)
少年の部 鈴木 愛琉(群馬)
青年の部 本田 陽彦(福岡)
一般一部 綿谷未由子(三重)
一般二部 高橋 恵子(福岡)
一般三部 中村利江子(香川)

令和五年度全国吟詠コンクール
決勝大会開催にあたって



(公財) 日本吟詠詩舞振興会
会長 沼崎 富

よりいつそうの 吟道振興を

公益財団法人日本吟詠詩舞振興会主催による、令和五年度全国吟詠コンクール決勝大会が、本日ここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。

ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろとご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しまして深く感謝申し上げます。

吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に・礼と節・を教えるもの

であり、今日までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をになう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことと存じます。

本大会は、これら吟道に親しむ皆様に対し、日々研鑽の成果を競いあう場を与え、併せて、よりいつそうの吟道振興の資とするものであります。

出場者の皆さんにおかれては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。

最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

令和五年度全国吟詠コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富

大会副会長 徳田 壽風

大会実行委員
 池内 賢二 吉田 魁桜
 宮川 紫朋 藤上 翔山 河野 鶴聲
 入倉 昭星 藤本 誠堂 安田 水鈴
 鈴木 吟亮 田中 国臣 遠藤 晃楓
 杉浦 英亮 古川 壽泉 伏尾 琵琶
 高木 法洲 伏尾 琵琶

審査委員

◎審査委員長 徳田 寿風
 ◎特別審査委員 沼崎 富
 ◎審査委員 河野 鶴聲 清水 錦洲 和田 彩楓
 藤原光侘子 田畑 水姫 池田 菖黎
 前山 紫峰

◎大会特別顧問

山岡 哲山 小幡 神叡 藤原 撰楠 矢萩 鳳祥
 武田 禧洲 益中 鵬山 前島 昊龍 松岡 萌洲
 野中 秀鳳 八代 輝靈 廣重 光風 日置 彩峰
 杉浦 容楓 小野 光翠扇 山路 泰洲 横山 寿城
 山内 正風 向山 侑吟 山本 賀陽 多田 正稔
 多田 正満 八文字 剛洲 安永 江悠 青柳 芳寿朗
 田中 岳藤 山口 華雋 横山 精真

◎大会参与

山本 兼正 黒田 秀月 熊木 雪洲 後藤 月戈
 加藤 紫昇 宮島 神鳳 奥村 精曄 齋木 彩染
 木村 鳳鶴 鈴木 洲玉 星野 洲虹 佐々木 翠鵬
 池田 嶺煌 上久保 雪女 石井 桃苑 田中 竜真
 松永 悠楓 榊原 静芳 鈴木 凱山 石川 春洋
 星野 紫虹 志塚 心将 菱谷 彩佑 小林 北鵬
 梶 鳳映 勝部 吼嶺 梅澤 昌峰 阿部 吟鳳

平成十七年度

幼年の部 伊達佳内子(東京)
 少年の部 遠藤 衣恵(群馬)
 青年の部 仲宗根 香(大阪)
 一般一部 榮 葉子(沖縄)
 一般二部 堀川 泰司(群馬)
 一般三部 山内チヨコ(広島)

平成二十年度

幼年の部 藤吉 瑞季(大分)
 少年の部 森田 夏代(鹿島)
 青年の部 堂前 優子(大阪)
 一般一部 山岡 里水(熊本)
 一般二部 平松美智子(岡山)
 一般三部 横沼 邦男(山口)

平成二十四年度

幼年の部 西田 陸人(山口)
 少年の部 向山 諒一(熊本)
 青年の部 荒崎有紀江(神奈川)
 一般一部 山岡三子(兵庫)
 一般二部 樋口 康子(奈良)
 一般三部 永井 節子(広島)

平成二十七年年度

幼年の部 米澤 早智(長野)
 少年の部 寺尾 琳子(香川)
 青年の部 村上 佳(大阪)
 一般一部 石川 千尋(福島)
 一般二部 藤田 忠三(青森)
 一般三部 松宮 弘亨(東京)

平成三十年年度

幼年の部 原田 愛子(大分)
 少年の部 原 光希(兵庫)
 青年の部 松葉 朋美(大阪)
 一般一部 石渡 千紘(愛知)
 一般二部 富山 正一(大阪)
 一般三部 中山 豈子(長崎)

平成十八年度

幼年の部 西田 伽湖(山口)
 少年の部 村上 佳(大阪)
 青年の部 空 晴美(福岡)
 一般一部 安藤 聖子(愛知)
 一般二部 中山紀代志(富山)
 一般三部 澤田 明穂(高知)

平成二十一年度

幼年の部 佐藤 百恵(大分)
 少年の部 渡辺 真生(福岡)
 青年の部 藤井 真美(愛知)
 一般一部 空 晴美(福岡)
 一般二部 澤頭 翠(東京)
 一般三部 松行 清子(福岡)

平成二十五年度

幼年の部 西部千紗希(岐阜)
 少年の部 佐藤 百恵(大分)
 青年の部 井戸 隆裕(大阪)
 一般一部 中野 博行(大阪)
 一般二部 山田 守(大阪)
 一般三部 白石多恵子(大分)

平成二十八年年度

幼年の部 安念美葵子(滋賀)
 少年の部 藤吉 瑞季(大分)
 青年の部 北川 由紀(広島)
 一般一部 宮本ロサリ(神奈川)
 一般二部 中村利江子(香川)
 一般三部 原 喜代美(東京)

令和元年度

幼年の部 宿利 壮平(大分)
 少年の部 東 瑞(大阪)
 青年の部 向山 諒一(熊本)
 一般一部 藤井 真美(愛知)
 一般二部 今村 満成(福井)
 一般三部 山地 好信(香川)

平成十九年度

幼年の部 東本 舞(岡山)
 少年の部 竹田 麻美(大分)
 青年の部 荒崎 春奈(神奈川)
 一般一部 原 優子(兵庫)
 一般二部 武 直子(岡山)
 一般三部 廣瀬登志夫(石川)

平成二十二年度

幼年の部 近藤 素弘(愛知)
 少年の部 西田 伽湖(山口)
 青年の部 恒成 育春(大分)
 一般一部 向山 人水(熊本)
 一般二部 林 潤子(東京)
 一般三部 佐藤 弘子(福岡)

平成二十六年度

幼年の部 西山 優花(広島)
 少年の部 松葉 真緒(大阪)
 青年の部 森田 夏代(鹿児島)
 一般一部 西岡佐智世(大阪)
 一般二部 堀 健次郎(福岡)
 一般三部 神崎 建次(愛媛)

平成二十九年度

幼年の部 木山 咲良(兵庫)
 少年の部 西部千紗希(岐阜)
 青年の部 綿谷未由子(三重)
 一般一部 岩城 伸子(兵庫)
 一般二部 玉越 律子(大阪)
 一般三部 山田 守(大阪)

令和三年度

幼年の部 阿部 尊生(東京)
 少年の部 山中 七海(熊本)
 青年の部 松葉 真緒(大阪)
 一般一部 荒崎有紀江(神奈川)
 一般二部 石田 義則(大分)
 一般三部 竹内 芳子(岐阜)

平成二年度 幼年の部 宮本ロサリ(徳島)
 少年の部 田村 勇樹(大阪)
 青年の部 菅 美恵子(兵庫)
 一般一部 角地 慶子(福岡)
 一般二部 滝田 主計(東京)
 一般三部 白石 秀雄(東京)

平成三年度 幼年の部 後藤未由子(三重)
 少年の部 宮本ロサリ(徳島)
 青年の部 小池 貴子(群馬)
 一般一部 鈴木 久子(愛知)
 一般二部 森本 治郎(岡山)
 一般三部 岩谷 正義(大阪)

平成四年度 幼年の部 池田 拓真(奈良)
 少年の部 笹本 若未(愛媛)
 青年の部 松葉 和美(大阪)
 一般一部 武田志津子(大分)
 一般二部 間島 久巳(東京)
 一般三部 小崎 定雄(愛媛)

平成五年度 幼年の部 加藤 亜弥(愛媛)
 少年の部 池田 拓真(奈良)
 青年の部 鈴木 聖子(愛知)
 一般一部 須藤 賢二(徳島)
 一般二部 上山 寿子(和歌山)
 一般三部 渡辺 盛(東京)

平成六年度 幼年の部 中田 絢子(徳島)
 少年の部 沖野なつ子(兵庫)
 青年の部 西岡佐智世(大阪)
 一般一部 米本 敬子(岡山)
 一般二部 藤原真佑美(大阪)
 一般三部 平田 富子(岡山)

平成七年度 幼年の部 本田 皓子(兵庫)
 少年の部 高木 早苗(山口)
 青年の部 山岡 貴子(兵庫)
 一般一部 照井あかし(東京)
 一般二部 鈴木 順子(大阪)
 一般三部 牧野 静江(兵庫)

平成八年度 幼年の部 池田 篤朗(奈良)
 少年の部 今 由香里(大阪)
 青年の部 原 弦太郎(兵庫)
 一般一部 矢野まつみ(和歌山)
 一般二部 藤本 鉄郎(東京)
 一般三部 青木 茂(静岡)

平成九年度 幼年の部 井戸 隆裕(大阪)
 少年の部 楠本 友見(福岡)
 青年の部 北野 晶子(大阪)
 一般一部 大木津多代(兵庫)
 一般二部 森田 智子(大阪)
 一般三部 堤 久代(佐賀)

平成十年度 幼年の部 河野 良宗(福岡)
 少年の部 西原麻里子(愛媛)
 青年の部 宮本ロサリ(徳島)
 一般一部 山岡 貴子(兵庫)
 一般二部 佐藤 弘子(福岡)
 一般三部 岡本ヨシエ(栃木)

平成十一年度 幼年の部 後藤 啓佑(三重)
 少年の部 井戸 隆裕(大阪)
 青年の部 山岡三千世(兵庫)
 一般一部 尾崎 富美(大阪)
 一般二部 松永真由美(三重)
 一般三部 伊藤 昇(愛知)

平成十二年度 幼年の部 西田 陵(山口)
 少年の部 河野 良宗(福岡)
 青年の部 今 由香里(大阪)
 一般一部 市吉万起子(大阪)
 一般二部 生方 照代(東京)
 一般三部 山戸 康子(大阪)

平成十三年度 幼年の部 大原 侑実(東京)
 少年の部 荒崎 春奈(徳島)
 青年の部 林 綾香(東京)
 一般一部 長山 祝子(奈良)
 一般二部 長谷川照子(愛知)
 一般三部 馬場圭一郎(福岡)

平成十四年度 幼年の部 西田 和樹(山口)
 少年の部 後藤未由子(三重)
 青年の部 鍋谷 明美(大阪)
 一般一部 志田 香織(東京)
 一般二部 中島 豊(奈良)
 一般三部 桜井 進(東京)

平成十五年度 幼年の部 伊藤 雅采(愛知)
 少年の部 長坂 理絵(愛知)
 青年の部 池田 拓真(大阪)
 一般一部 府川有紀子(徳島)
 一般二部 須藤 賢二(徳島)
 一般三部 松尾 泰輔(福岡)

平成十六年度 幼年の部 難波 初衣(兵庫)
 少年の部 山本 純子(大分)
 青年の部 奥村 由美(東京)
 一般一部 土澤なぎさ(栃木)
 一般二部 野島 繪未(東京)
 一般三部 河島 末松(福岡)

中澤 春誠 齋 経風 奥脇 嶽津 薦田 南尚
 白男川 洌風 高橋 瑞祥 麻生 契春 三橋 吟煌
 毛塚 静精 寺嶋 城靖 栗野 電暉 鈴木 海洲
 久保田正峰 小林 岳章 渡 精華 寺山 天洲
 山下 神燈 小峯 昊苑 丹治 独風 石井 誠紀
 長谷部紫昂

〈県連代表〉

澤石 峯洲 梅田 錦翠 阿部 清心 寺嶋 城靖
 立身 岳元 館岡 奥脇 宮川 紫朋 穴戸 岳荘
 高橋 瑞祥 上田 岳美 黒田 秀月 齋藤 心晃
 池田 嶺煌 石井 桃苑 清水 錦洲 毛塚 静精
 田中 国臣 小松 獅剣 杉山 翔鴻 遠藤 晃楓
 白井 寛洲 松澤 天楓 北瀬 岳櫻 渡邊 皇洲
 山本 演志 堀口 孝心 吉田 観心 山田 静将
 山口 華雋 渡辺 紘山 芳倉 清峰 古川 壽泉
 藤上 翔山 楠部 齋山 高木 法洲 佐藤 翔風
 中林 涼風 徳田 寿風 松井 松聲 原田 瑞祥
 濱田 翠峰 河野 鶴聲 安部 洗霊 伊藤 翠鳳

運営委員

藤本 誠堂 中武 玲星 向山 侑吟 日向美代峰
 金城 岳周

◎総務広報委員長 上久保雪女
 同 副委員長 亀井 麗岳 梶原 麗修
 同 委員 黒柳 誠心 林 煌月(医務)

◎資材管理委員長 鈴木 洲玉
 同 副委員長 滝本 紫苑 小池 洵風
 同 委員 荒井 剛嶺 鈴木 誠敬

◎受付委員長 齋木 彩染
 同 副委員長 小谷野煌弘 山田 彩綺 星野 紫栄
 ◎連絡委員長 石井 桃苑
 同 副委員長 土澤 美岳 宇井 修光
 同 委員 榊 裳風

全国吟詠コンクール決勝大会優勝者一覧表

◎舞台委員長 同 副委員長 同 委員	田中 竜真 魚住 伸水 多嘉良誠良	◎詩文監査委員長 同 副委員長	中野 吟紫 加藤 契琵
◎賞典委員長 同 副委員長	鈴木 吟亮 武藤 嶺栄	◎接待委員長 同 副委員長 同 委員	星野 洲虹 杉本 豊翠 武田 紫旭
◎会場委員長 同 副委員長	佐々木翠鵬 小峯 晃苑 福田 劔鵬	◎集計委員長 同 副委員長 同 委員	熊木 雪洲 高橋 嶺香 河西風慶律
◎音響委員長 同 委員	岡田 一穂 和田 尤堂	◎賞状作成委員長 同 委員	石井 錦文 石井 嶺亮
◎司会委員長 同 副委員長 同 委員	田中 国臣 丹治 独風 大山 宗鵬	◎大会本部事務局 事務局 長 事業課 長 総務課 員	石井 嶺亮 齋藤 風瑛 石井 嶺亮 齋藤 風瑛 石井 嶺亮 齋藤 風瑛 石井 嶺亮 齋藤 風瑛
◎計時委員長 同 副委員長	山田 伯峯 門倉 香江		鷹雪
昭和四十四年度 少年の部 綿引 文字 (茨城) 青年の部 三好 紀夫 (大阪)	昭和五十一年度 少年の部 梶川梨江子 (広島) 青年の部 田畑 一子 (大阪)	昭和五十九年度 少年の部 入江 有希 (東京)	
昭和四十五年度 少年の部 河野 淳子 (福岡) 青年の部 志茂野博善 (静岡)	昭和五十二年度 少年の部 木村 昌弘 (大阪) 青年の部 和田奈緒美 (愛知)	昭和六十二年度 少年の部 鈴木 又治 (愛知)	
昭和四十六年度 少年の部 和田奈緒美 (愛知) 青年の部 西川 多恵 (愛媛)	昭和五十三年度 一般一部 西 栄 (長崎) 一般二部 中村十三年 (北海道)	昭和六十一年度 幼年の部 岩橋輝司子 (福岡)	
昭和四十七年度 少年の部 青木 重子 (徳島) 青年の部 伊藤 良子 (香川)	昭和五十四年度 少年の部 今中 彰子 (岡山) 青年の部 青木 重子 (徳島)	昭和六十二年度 幼年の部 山田 美和 (広島)	
昭和四十八年度 少年の部 山下佐登子 (福岡) 青年の部 荘司 愛 (茨城)	昭和五十五年度 一般一部 佐々木司郎 (京都) 一般二部 牧野 静江 (兵庫)	平成元年度 幼年の部 堂前 優子 (大阪)	
昭和四十九年度 少年の部 岩崎貴代美 (東京) 青年の部 赤坂 綾子 (大阪)	昭和五十六年度 一般一部 田畑 一子 (大阪) 一般二部 西村 茂 (京都)		
昭和五十年度 少年の部 八代 美恵 (宮崎) 青年の部 園山 順子 (福岡)	昭和五十七年度 少年の部 太田 誠 (宮崎) 青年の部 堀井 良美 (岐阜)		
	昭和五十八年度 一般一部 池田 功 (東京) 一般二部 岸田 蔓子 (大阪)		
	昭和五十九年度 少年の部 梶野 洋子 (福岡) 青年の部 戸田 高子 (山梨)		
	昭和六十年度 幼年の部 早川 貴子 (群馬) 少年の部 田沢 淳子 (徳島)		
	昭和六十一年度 幼年の部 並木 道子 (東京) 少年の部 田仲 志帆 (愛知)		
	昭和六十二年度 幼年の部 山田 美和 (広島) 青年の部 伊藤美智子 (徳島)		
	昭和六十三年度 幼年の部 山田 美和 (広島) 青年の部 白井万起子 (大阪)		
	昭和六十三年度 幼年の部 並木 道子 (東京) 少年の部 田仲 志帆 (愛知)		
	昭和六十三年度 幼年の部 山田 美和 (広島) 青年の部 伊藤美智子 (徳島)		
	昭和六十三年度 幼年の部 山田 美和 (広島) 青年の部 伊藤美智子 (徳島)		
	昭和六十三年度 幼年の部 山田 美和 (広島) 青年の部 伊藤美智子 (徳島)		
	昭和六十三年度 幼年の部 山田 美和 (広島) 青年の部 伊藤美智子 (徳島)		

143	142	141	140	139	138	137	136
赤塚善夫	吉田真由美	西山美由紀	佐野誠樹	横山美由紀	岡田洋子	西京子	井川良得
愛知	熊本	広島	兵庫	群馬	富山	福島	茨城
九段の桜	胡隠君を尋ぬ	絶句 (両箇の黄鸝)	涼州詞	胡隠君を尋ぬ	涼州詞	絶句 (両箇の黄鸝)	常盤孤を抱く の図に題す

151	150	149	148	147	146	145	144
瀧下和雄	鈴木美智代	井上智恵美	丹羽峰子	今井美津子	百田あゆみ	井口隆子	信国武士
高知	大阪	愛媛	東京	大阪	京都	愛知	福岡
絶句 (両箇の黄鸝)	春夜洛城に 笛を聞く	絶句 (両箇の黄鸝)	常盤孤を抱く の図に題す	絶命の詞	絶句 (両箇の黄鸝)	常盤孤を抱く の図に題す	涼州詞

153	152
上野真佐江	福原久男
広島	東京
九段の桜	胡隠君を尋ぬ

月刊『吟剣詩舞』ご購入のお願い
月刊誌『吟剣詩舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。
購読料は年間五、〇〇〇円(送料込)です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟剣詩舞』係にて、購読料を添えてお申し込み下さい。どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

令和五年度全国吟詠コンクール指定吟題

●幼年・少年の部 (絶句編)		●青年・一般の部 (絶句編)	
①九月十日	(菅原 道真)	①常盤孤を抱くの図に題す	(梁川 星巖)
②富士山	(石川 丈山)	②舟中子規を聞く	(城野 静軒)
③山行同志に示す	(草場 佩川)	③辞世	(吉田 松陰)
④桂林荘雑詠諸生に示す(その一)	(広瀬 淡窓)	④涼州詞	(王之 渙)
⑤弘道館に梅花を賞す	(徳川 景山)	⑤春夜洛城に笛を聞く	(李 白)
⑥早に白帝城を發す	(李 白)	⑥胡隠君を尋ぬ	(高 啓)
⑦菊 花	(白居易)	(続絶句編)	
⑧江南の春	(杜 牧)	⑦絶命の詞	(黒沢忠三郎)
⑨春 夜	(蘇 軾)	⑧九段の桜	(本宮 三香)
⑩偶 成	(朱 熹)	⑨絶句(両箇の黄鸝)	(杜 甫)
		⑩江楼にて感を書す	(趙 嘏)

令和六年度全国吟詠コンクール指定吟題

●幼年・少年の部 (絶句編)		●青年・一般の部 (絶句編)	
①九月十日	(菅原 道真)	①時に憩う	(良 寛)
②富士山	(石川 丈山)	②大楠公	(徳川 景山)
③山行同志に示す	(草場 佩川)	③壇の浦を過ぐ	(村上 仏山)
④桂林荘雑詠諸生に示す(その一)	(広瀬 淡窓)	④従軍行	(王 昌 齡)
⑤弘道館に梅花を賞す	(徳川 景山)	⑤峨眉山月の歌	(李 白)
⑥早に白帝城を發す	(李 白)	⑥絶句(江碧にして)	(杜 甫)
⑦菊 花	(白居易)	(続絶句編)	
⑧江南の春	(杜 牧)	⑦佳賓好主	(佐藤 一斎)
⑨春 夜	(蘇 軾)	⑧西南の役陣中の作	(佐々 友房)
⑩偶 成	(朱 熹)	⑨重ねて楓橋に宿す	(張 継)
		⑩夏宮麿土の院に題する詩	(杜 荀 鶴)

令和五年度全国吟詠コンクール決勝大会実施要項

(1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、この「全国吟詠コンクール実施要項」に基づいて実施する。

(2) コンクールは、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	12才未満	12才以上 18才未満	18才以上 35才未満	35才以上 55才未満	55才以上 70才未満	70才以上

(いずれも年令は令和五年四月一日現在とする)

(3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟詠詩舞振興会(以下「財団」と省略)が全国八地区連絡協議会に委嘱して行われた・項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載された氏名者以外のとび込みは許されない。尚、少壮吟士として表彰された者はこのコンクールに当初から

参加を認められない。

(4) 地区予選大会の名称とその包含地域

- I 北海道地区大会(道央・道南・道北・道東・北紋)
- II 東北地区大会(青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟)
- III 東日本地区大会(山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京)
- IV 中部地区大会(静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重)
- V 近畿地区大会(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
- VI 中国地区大会(岡山・広島・山口・鳥取・島根)
- VII 四国地区大会(香川・愛媛・徳島・高知)
- VIII 九州地区大会(福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄)

〈一般二部〉

114	113	119	118	117	116	115
津村恵子	安藤智津子	木戸頌子	足立ゆう子	二井谷 健	木村眞美	里見和俊
長崎	香川	広島	愛媛	広島	広島	石川
九段の桜	春夜洛城に 笛を聞く	舟中子規を聞く	絶命の詞	涼州詞	絶句 (両箇の黄鸝)	辞世
127	126	125	124	123	122	121
中神恵子	谷口宏明	東原 恵	森脇弥生	田中由里子	米持理恵	得能あけみ
三重	佐賀	香川	徳島	福島	東京	愛媛
舟中子規を聞く	絶句 (両箇の黄鸝)	春夜洛城に 笛を聞く	舟中子規を聞く	絶句 (両箇の黄鸝)	春夜洛城に 笛を聞く	九段の桜
135	134	133	132	131	130	129
倉原妙子	高橋政博	山村幸子	岩江 実	池田久志	伊藤利博	春藤薫於里
大分	道央	大阪	岡山	大阪	愛知	大分
絶句 (両箇の黄鸝)	舟中子規を聞く	絶命の詞	辞世	絶句 (両箇の黄鸝)	春夜洛城に 笛を聞く	胡隠君を尋ぬ
128	128	128	128	128	128	128
正時賢二	正時賢二	正時賢二	正時賢二	正時賢二	正時賢二	正時賢二
道央	道央	道央	道央	道央	道央	道央
春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く

96	95	94	93	92	91	90	89
鯉川ひとみ	乙部直之	足立秀幸	川口信子	三浦栄一	中野澄子	池田弘隆	山本生男
熊本	群馬	兵庫	京都	東京	広島	香川	広島
常盤孤を抱く の図に題す	江楼にて 感を書す	辞世	絶命の詞	常盤孤を抱く の図に題す	常盤孤を抱く の図に題す	常盤孤を抱く の図に題す	春夜洛城に 笛を聞く
104	103	102	101	100	99	98	97
吉村廣文	佐藤正美	石川雅健	古川博輝	住本隆景	前原洋子	西岡悦子	原口保行
佐賀	香川	香川	長崎	大阪	香川	大阪	佐賀
絶命の詞	常盤孤を抱く の図に題す	春夜洛城に 笛を聞く	涼州詞	九段の桜	絶句 (両箇の黄鸝)	九段の桜	九段の桜
112	111	110	109	108	107	106	105
浅野盛司	相馬武	下西美保子	尾崎一三	奥山みどり	星名美知子	新谷清美	音無勝美
大分	山形	広島	京都	道央	茨城	福井	大分
九段の桜	絶命の詞	胡隠君を尋ぬ	涼州詞	舟中子規を聞く	胡隠君を尋ぬ	春夜洛城に 笛を聞く	九段の桜

(5) コンクールは次の審査要項によって実施する。

- (イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され財団本部理事会で決定する。
- (ロ) 出吟順は申込後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競吟実施中に限られる。
- (ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定吟題、幼年・少年の部十題、青年・一般の部十題から選び、届け出たものとする。
- (ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定「吟剣詩舞道伴奏集」(以下「指定伴奏テープ」という)の前奏を確認して吟じ始める(吟題は言わない)。出吟前後の敬礼は省略する。
- (ホ) 吟詠時間は二分以内に吟じ終るものとする。
- (ヘ) 指定伴奏テープの本数及び曲目は、あらかじめ届け出た本数及び曲目によるものとし、変更は認めない。
- (6) 次の場合は失格とする。
- (イ) あらかじめ届け出てプログラムに記載された吟題と異なる場合。

(ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一され、本年度指定された詩文の読みと異なる場合。

- (イ) 吟詠の途中で絶句(つかえること)した場合。
- (ニ) 二分を超えた知らせのベルが鳴った場合。
- (ホ) プログラム記載の出吟順番に遅れた場合。
- (ハ) その他、審査委員長が失格と認めた場合。
- (7) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」(財団内規)によるものとし、発声(声質、技術)、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。上位同点の場合は審査委員長が各委員の意見を聞いて決定する。
- (8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。
- (イ) 声の美しさ、品性、洪さなどとともに発声の自然さ、音量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。
- (ロ) 伴奏曲と調和(音程を含む)しているかどうか。
- (ハ) 共通語アクセント(わたりを含む)及びガ行鼻音が正確かどうか。
- (ニ) 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。
- (ホ) 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

- (9) コンクール進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ録画及びテープレコーダー録音は禁止する。
- (10) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合がある。
- (11) 入賞者表彰は表彰式典の席上行われ、入賞者数と表彰は左の如くとする。
- (イ) 入賞者数は左記の通りとする。
- (ロ) 出場者には参加賞を授与する。
- (ハ) 各部優勝者は第五十三回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。
- (ニ) 各部入賞者に、次の賞を送る。

〈幼年の部〉

- 一位 会長賞・金メダル・NHK杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位～五位 会長賞

- 一位 会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～五位 会長賞
- 〈青年の部〉
- 一位 会長賞・金メダル・NHK杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～七位 会長賞
- 〈一般一部〉
- 一位 会長賞・金メダル・民放杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～八位 会長賞
- 〈一般二部〉
- 一位 会長賞・金メダル・民放杯
 - 二位 会長賞・銀メダル
 - 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～九位 会長賞

〈一般三部〉

72	71	70	69	68	67	66
佐々木政彦	武田 稔	野間澄子	桐山みや子	金堀孝行	堀内京子	吉川和宏
香川涼州詞	新潟涼州詞	広島舟中子規を聞く	大阪胡隠君を尋ぬ	広島絶命の詞	静岡舟中子規を聞く	東京常盤孤を抱くの図に題す

80	79	78	77	76	75	74	73
小池義行	尾嶋サカエ	井戸清明	山本俊一	吉田秋良	紀野実知子	高橋雄子	長谷川ひさよ
東京涼州詞	愛知常盤孤を抱くの図に題す	大阪九段の桜	福岡辞世	兵庫絶命の詞	静岡涼州詞	広島九段の桜	愛知江楼にて感を書す

88	87	86	85	84	83	82	81
山本啓一	松村一正	米田美津江	木村博文	神東伸任	日野省三	渡辺良夫	草薙賢三
静岡常盤孤を抱くの図に題す	東京胡隠君を尋ぬ	道央絶句(両箇の黄鸝)	茨城春夜洛城に笛を聞く	愛媛舟中子規を聞く	愛媛辞世	岐阜胡隠君を尋ぬ	香川絶命の詞

〈一般一部〉

49	48	47	46	45	44	43
塩月直美	阿部剛之	篠原友美	荒谷早智子	上村善子	小藤千枝	笠井彰太
奈良	青森	香川	愛知	兵庫	広島	福岡
春夜洛城に 笛を聞く	春夜洛城に 笛を聞く	絶命の詞	常盤孤を抱く の図に題す	常盤孤を抱く の図に題す	春夜洛城に 笛を聞く	常盤孤を抱く の図に題す

57	56	55	54	53	52	51	50
井戸隆裕	林田麻由	徳安秀作	白神信子	根岸明香	塩谷優香	中澤宏	荒崎春奈
大阪	大分	福岡	岡山	大阪	愛知	茨城	神奈川
舟中子規を聞く	絶命の詞	胡隠君を尋ぬ	常盤孤を抱く の図に題す	舟中子規を聞く	江楼にて 感を書す	絶命の詞	絶句 (両箇の黄鸝)

65	64	63	62	61	60	59	58
吉田あゆみ	佐藤弘樹	吉澤純子	稲垣亜子	花崎亜伊	乾夏夫	田中達也	阿部香織
大分	鳥取	東京	大阪	長野	高知	香川	東京
絶句 (両箇の黄鸝)	九段の桜	絶句 (両箇の黄鸝)	涼州詞	春夜洛城に 笛を聞く	絶命の詞	春夜洛城に 笛を聞く	絶句 (両箇の黄鸝)

〈一般三部〉

一位 会長賞・金メダル・民放杯
 二位 会長賞・銀メダル
 三位 会長賞・銅メダル
 四位～十位 会長賞
 また、各部優勝者(二位)へ授与する会長杯は持ち回りとし、各部優勝者の内から、最優秀者に高松宮妃記念杯(持ち回り)を授与する。

地区別	資格区分							合計
	幼年 12歳未満	少年 18歳未満以上	青年 35歳未満以上	一般一部 55歳未満以上	一般二部 70歳未満以上	一般三部 70歳以上		
北海道	1	1	0	0	2	2	6	
東北	1	1	1	1	2	2	8	
東日本	2	2	2	4	5	7	22	
中部	1	3	2	3	6	7	22	
近畿	2	3	4	5	6	8	28	
中国	2	2	2	3	6	6	21	
四国	1	1	1	3	6	9	21	
九州	2	3	2	4	6	8	25	
計	12	16	14	23	39	49	153	
入賞	5位	5位	7位	8位	9位	10位		

◎コンクール出場者氏名

〈幼年の部〉

出演順	氏名	推薦	演題	成績
1	後藤花音	広島	九月十日	
2	池田有維	大阪	偶成	
3	小野愛琉真	栃木	偶成	
4	水多香乃	山形	桂林荘雑詠平生に示す(その二)	
5	原田峻輔	広島	富士山	

〈少年の部〉

13	木山咲良	兵庫	富士山	
14	竹川心彩	愛知	桂林荘雑詠平生に示す(その二)	
15	平根愛華	熊本	九月十日	
16	宿利実生	福岡	山行同志に示す	
17	前田紗那	広島	早に白帝城を発す	
18	田村冴子	青森	偶成	
19	藤原おと	栃木	江南の春	

〈青年の部〉

20	横山百音	兵庫	弘道館に梅花を賞す	
21	西部和華	岐阜	菊花	
22	高橋知里	香川	弘道館に梅花を賞す	
23	佐藤季	大分	弘道館に梅花を賞す	
24	森内爽月	神奈川	菊花	
25	辻唯那	岐阜	江南の春	
26	林一希	大阪	偶成	
27	原彩佳理	広島	九月十日	

28	加藤遙真	道央	菊花	
29	大野統也	愛知	絶句(両箇の黄鸝)	
30	相澤侑我	神奈川	春夜洛城に笛を聞く	
31	塩谷萌乃香	愛知	舟中子規を聞く	
32	宮本七菜子	大分	常盤孤を抱くの図に題す	
33	原光希	兵庫	常盤孤を抱くの図に題す	
34	下北祥子	兵庫	常盤孤を抱くの図に題す	

35	藤吉瑞季	大分	九段の桜	
36	東瑞	大阪	舟中子規を聞く	
37	小早川麻衣	京都	常盤孤を抱くの図に題す	
38	鈴木治親	栃木	春夜洛城に笛を聞く	
39	平岡大輝	広島	涼州詞	
40	若月武紘	岩手	春夜洛城に笛を聞く	
41	坂本真美	愛媛	絶命の詞	
42	澁田知佳依	広島	舟中子規を聞く	